



みらい

自由が丘未来ビジョン

JIYUGAOKA FUTURE VISION 2050+

〈自由の思想〉で創造していく
グリーン社会の小さな世界都市づくり

はじめに

自由が丘のまちが誕生してから 90 年余りの時が流れました。当時の先鋭的な文化人たちが求めた「自由」は、時代の大きな変化を背景として表現の仕方は変容していますが、その思想は綿綿と受け継がれ、他のまちの追随を許さないにぎわいの雰囲気とたたずまいにより、東京ひいては全国において比類ないまちブランド感を発信してきています。

一方で人口減少や超高齢化社会が進行し、情報技術の急速な進化や地球環境問題の深刻化など、これまでと著しく異なる状況を前提としてまちづくりを行うことが余儀なくされる今日において、様々なまちがそれぞれの努力と工夫で更新を行っています。これに対して自由が丘は今の状況に甘んじることなく、長い時間をかけて培ってきた良さを伸ばしながら抱える課題を創造的に改善していくことにより、`変わっていく、ことを意識することが必要`となっています。

そのため、社会経済情勢の急速な変化を見据えながら、まちが変わっていくのに必要な時間を 30 年と設定し、その間のまちづくりの道標として当未来ビジョンを策定することとしました。その際、自由が丘のまちづくりの根底にある〈自由の思想＝独自の価値感や文化性を得るための能動的な意志〉を発展的に継承していくことこそが自由が丘を自由が丘たらしめるものと考えていきます。

当未来ビジョンは、地域の方々が自ら考え取り組んでいく将来のまちづくりに向けた構想であることから、策定の時点では実現が困難な夢のような内容や、協議調整も図れていない内容が含まれていますが、今後、まちづくりに関わる一人ひとりが〈自由の思想〉を持って取り組むことにより、夢は実現され、新たな自由が丘が創り出されるものと確信しています。

目次

I章 未来ビジョンの役割	1
～なぜ未来ビジョンが必要なのか～	
II章 現在の自由が丘の課題	5
～次代に向けて自由が丘が何を意識するべきか～	
1. 自由が丘を取り巻く状況	
2. 自由が丘の現状と向かうべき方向	
III章 まちづくり目標と取組策	23
～30年をかけて自由が丘をどのようなまちにするか～	
IV章 当面の取組	49
～先ず出来ることからはじめていく～	
V章 これからのまちの運営体制	53
～エリアプラットフォームを構築し持続発展的に展開する～	
用語解説	57



